

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072300397		
法人名	医療法人 正慈会		
事業所名	グループホーム ゆらり館		
所在地 (電話番号)	〒834-0004 八女市納楚446-1 (電話) 0943-23-5171		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(H21年7月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤6人, 非常勤8人, 常勤換算5.1人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / 改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> /無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	78 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	草場内科循環器科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、八女市街の東方に位置し、道路沿いにはスーパーマーケットやホームセンター・商店が立ち並んでいる。医療法人を母体としており利用者や家族の安心にも繋がっている。平屋建てであり、玄関が西・東棟に分かれ、室内は天然木の良さを取り入れ清潔感が漂っている。又、高齢者の身体機能を意識し住環境に配慮した造りとなっている。職員は、理念に沿って、日々、利用者本位の生活が快適で安心できるように自立支援に導くケアを行っている。利用者が穏やかに暮らしていることに家族の信頼も強く評判の良いホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で、改善点は 家族等への報告 チームでつくる利用者本位の介護計画書 現状に即した介護計画の見直し プライバシーの確保の徹底 災害対策であった。ホームだよりを利用者の近況を一言添える センター方式を取り入れアセスメントに本人の思いを書き込む 掲示物や個人を特定するものに対し、同意書を交わす 夜間想定避難訓練を実施する、といずれも全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は、評価の意義や目的を理解し共有している。自己評価は全職員で記入し、日々のケアの反省や再確認する機会としている。又、前回の評価結果について話し合い、改善出来るように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自治会長・民生委員・市担当者・包括支援センター職員・家族等が出席している。会議では、利用者の生活や身体状況・評価等について報告し、ホームの理解を得られるように働きかけている。参加者からは、地域高齢者の実情を話していただき介護相談の場にもなっている。会議の内容や出席者の意見、感想を議事録にまとめ職員全員が閲覧できるようにしている。担当地域以外の民生委員の参加も検討中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族が来訪された時に意見や不満などを伺うようにしている。現在のところ意見・不満はない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事等は把握している。散歩の途中に地域の方々と挨拶を交わしたり、スーパーマーケットや理・美容院に出掛ける等して、顔見知りになっている。利用者が、ホームの外で道に迷われた時は保護して頂く等の支援もある。又、地元の方から桜の開花時期や散歩コースを教えて頂く等して交流を図っている。定期的に自治会長や民生委員・ボランティア等が訪問し、ホームと地域の関係を築いている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1. 自分らしい生活 2. 利用者の尊厳を保った生活の支援 3. 家庭的な雰囲気であらいだ生活を 4. 地域に密着し開かれたホームをと掲げ、地域に密着しその人らしく暮らし続けられるよう事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニットの玄関わきの廊下に掲示されており、利用者と共に生活する中で実践できるように取り組んでいる。ミーティング・申し送り時に職員全員で話し合い、理念の共有がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事等は把握している。散歩の途中に地域の方々や挨拶を交わしたり、スーパーマーケットや理・美容院に出掛ける等して、顔見知りになっている。利用者が、ホームの外で道に迷われた時は保護して頂く等の支援もある。又、地元の方から桜の開花時期や散歩コースを教えて頂く等して交流を図っている。定期的に自治会長や民生委員・ボランティア等が訪問し、ホームと地域の関係を築いているが、利用者との直接的な関わりが少ない。		地域の方々が気軽に立ち寄れる場所作りや利用者の身体状況に応じて地域活動に参加する等、地域密着型としての役割を果たしていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義や目的を理解し共有している。自己評価は、全職員で記入し日々のケアの反省や再確認する機会としている。又、前回の評価結果について職員全員で話し合い、改善出来るように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、自治会長・民生委員・市担当者・包括支援センター職員・家族等が出席している。会議では、利用者の生活や身体状況・評価等について報告し、ホームの理解を得られるように働きかけている。参加者からは、地域高齢者の実情を話して頂き介護相談の場にもなっている。会議の内容や出席者の意見・感想を議事録にまとめ、職員全員が閲覧できるようにしている。担当地域以外の民生委員の参加も検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者と話し合ったり、相談事があれば電話で連絡したりする程度で、積極的な交流とまでは至っていない。		事業所側から積極的に行政に働きかけ、よりよい関係作りを行いサービスの質の向上に努めることを期待したい。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用する利用者はいないが、職員は制度について理解している。外部の研修会に参加したりホームで勉強会を行う等して、必要な場合にいつでも説明できるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームに来訪された家族に、利用者の近況や状態を報告している。又、職員は、暮らしぶりを一言添えている。金銭管理については、定期的に家族へ金銭出納帳を提示し確認後署名をして頂いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪された時に意見や不満など何うようにしている。現在のところ意見・不満はない。		苦情や意見等直接スタッフに言えない家族がいることも想定し、意見箱の設置や無記名のアンケート等で幅広く意見をくみ上げる様な取り組みを期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、離職者が殆どいないが、職員が離職する場合は、利用者や家族に挨拶をして理解して頂いている。その際は、利用者のダメージを防ぐために、さりげない声かけを行うように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たって、特に条件は定めていないが、介護についての考え方や個人の人柄を重視し採用している。又、職員が向上心を持ちながら働ける職場作りや更なる資格取得等が実現出来るように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は利用者を尊敬し、お互いに高め合えるように配慮している。日頃からミーティングや申し送り時に職員の声かけや接し方等を確認している。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の勉強会や内部・GH協議会研修に参加している。外部の研修には職員が交代で参加し、研修内容は全職員で共有出来るように伝達している。又、資格取得を目標としている職員には柔軟な対応を行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員はGH協議会の研修会に参加し交流する機会が出来る。又、市内のGH事業所に行き来したり介護について話し合う等して、関係作りや質の向上が出来るように取り組んでいる。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあれば、管理者は本人・家族にホームの説明を充分に行うようにしている。体験や短期滞在利用を行いながらホームに馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴や得意なことを把握し、人生の先輩と共に暮らし、支え合うことを意識している。得意とする料理や調理技術・漬物・らっきょうの漬け方を習ったり、ホームの畑で野菜作りや収穫を共に行ったりしながら、共通の話題で楽しみができるように支援している。また利用者から花について教えて貰い、詳しくなった職員もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに寄り添い、思いや意向を汲み取れるようにしている。毎日の暮らし方についても自然な形で実現できるよう支援している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは、センター方式の一部を使い本人の思いを書き込んでいる。また、家族や職員・計画作成担当者と話し合い、利用者・家族の意向や職員の意見が反映された利用者本位の介護計画書となっている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行い期間に応じた介護計画書が作成されている。又、利用者の心身状態に変化が生じた場合は、家族や必要な担当者との会議を開催し、新たな介護計画書を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が通院先へリハビリに行く際の送迎や法事に出席する場合の送迎や急な入院時に付き添う等、家族の代わりとなりホームとして出来ることを、一人ひとりに対して柔軟に対応・支援している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を受診したり、ホームの協力医へ変更するなど、継続的に医療を受けられるようにしている。専門的な受診の場合には、職員が同行する等している。通院時の送迎は、利用者・家族の要望に応じ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に看取りに対する説明を行い、同意書を交わしている。利用者の状態に合わせ本人や家族の希望があれば、支援する体制も出来ている。又、必要があれば併設病院の医師も加わり対応している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃から理念を念頭に置き、利用者への声かけや接し方に気をつけている。個人ファイルも施錠できる書庫に保管されている。掲示物や写真等個人を特定できるものについては、同意書を交わす等して取り扱いを慎重にしている。又、利用者を尊重し、個室で話す等の配慮もなされている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れは大まかにあるが、利用者が朝のラジオ体操や洗濯等、日課としていることを大切に、その人らしく暮らせるようにしている。日中の活動参加は、利用者のペースに合わせて希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・配膳・片付けは、利用者の出来る事を職員が見守りながら支援している。職員は、利用者と同じ食卓で同じ食事を摂っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットでは週3回、午前から午後にかけて入浴が可能であり、東・西棟を通し、毎日入浴が出来るようにしている。時には併設されたデイサービスでの入浴に誘ったり、仲の良い利用者同士で楽しんで貰えるように勧めたりしている。入浴を拒否される方については、利用者の希望を踏まえ家族と回数を決める等して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や能力を把握しながら畑仕事、炊事、漬物作り等出来るように支援している。又、利用者の誕生会には、お謡いを披露する等して得意なことを発揮したりお互いに楽しめる場面作りをしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーマーケットや理・美容院に出掛けている。季節ごとに、バスハイクを計画する等して楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、玄関は夜間のみ施錠されている。日中は、人の出入りをチャイムで確認し帰宅願望のある利用者に対しては、さりげない声かけや共に外出する等して支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回行い、夜間想定訓練も実施し、ホーム内の連絡網や併設病院の連絡体制は出来ている。しかし、避難場所が把握できていないことや連絡網が事務室の壁片隅に貼り付けられていることで、見えづらい点がある。又、消防団への協力依頼は行われているが、地元の方への働きかけがなされていないことで緊急時の対応に不安がある。		災害時には、昼夜を問わず地域住民の支援が不可欠となるので、住民を含めた防災・避難訓練を行ったりするなど、常々より協力依頼をすることが望まれる。又、日頃から職員に対して災害時の誘導方法や器具の取扱い等を訓練する等して認識や自信につながるよう期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設されている病院の栄養士に相談しながら、栄養のバランス・摂取量・嗜好を取り入れメニュー作りをし調理している。利用者の状態にあった調理法で工夫しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂は木の良さや温かみを取れ入れ、一角には和室が設けられており、畳や障子が落ち着いた雰囲気となっている。天井も高く天窓のステンドグラスや照明もやさしい色合いを取り入れている。又、利用者が、ウッドデッキから裏庭に出入りし洗濯物を干したり、取り入れたり出来るようにしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームの備え付けであるが、利用者が使いたなくなったタンスや椅子等の家具が持ち込まれている。趣味である観葉植物を置いたり、落ち着いた空間の中で趣味の短歌を作ることができるようにその人らしい部屋で居心地良く過ごせるようにしている。		